

中部地域の普及活動（普及活動月報）

令和8年6月 中部農林振興局

（中部農業改良普及センター）

目次

- I 管内農業・農村の主な動き (P2～3)
 - 1 宮崎県農業経営指導士会中部支部総会並びに意見交換会
 - 2 宮崎方式農業営農支援体制農業者研修「農業の事業承継と税務対策」
 - 3 就農に向けた支援
 - 4 中部地区畑作営農改善推進協議会委員会
 - 5 露地野菜栽培講習会
 - 6 6月期子牛せり市
 - 7 宮崎中央家畜市場子牛品評会
 - 8 JAみやざき宮崎中央地区本部 施設園芸セミナー
 - 9 綾町施設野菜病虫害対策協議会総会
- II 主な普及指導活動等の取組み
 - 1 地域プランに基づく普及活動 (P4～6)
 - 1 JAみやざき宮崎中央地区本部宮崎支店胡瓜部会SCS研修会
 - 2 夏秋ピーマン担当者会で外気導入による高温対策展示ほを設置
 - 3 促成ピーマンにおける労働力確保の現状調査とほ場状況確認
 - 4 和牛コンソーシアム農場巡回
 - 5 本郷南方地区基盤整備事業準備委員会
 - 6 新木地区基盤整備事業推進委員会
 - 7 跡江、下小松地区水田裏作実証展示ほ反省会
 - 8 令和8年度 第1回中部地区基腐病対策会議
 - 9 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会
 - 10 綾オーガニックスクール、水稻栽培講習会
 - 2 地域課題一覧に関する普及活動 (P7～8)
 - 1 中部地区水稻原・採種協議会総会
 - 2 第一回日本茶AWARD出品者研修会
 - 3 JAみやざき宮崎中央地区本部ハウス金柑部会栽培研修会
 - 4 鳥獣重点現地支援に係る打合せ
 - 5 宮崎市SAP会議通常総会

I 管内農業・農村の主な動き

1 宮崎県農業経営指導士会中部支部総会並びに意見交換会

17日、総会が開催され、農業経営指導士11名、振興局10名が出席しました。その後の意見交換会には指導士11名、振興局12名が出席しました。

総会では、前年度の活動実績、今年度の活動計画について協議され、いずれも承認・可決されました。

意見交換会では、「令和8年度普及指導活動計画重点的施策（地域プラン）」を中心に意見交換を行い、大変貴重な御意見をいただきました。今回、提言いただきました内容は、今後の普及活動や県・国への要望等に活かしていきます。



【総会及び意見交換会】

2 宮崎方式農業営農支援体制農業者研修「農業の事業承継と税務対策」

22日、飯田三和税理士を講師に普及センターで開催し、4名が参加しました。

様々なケースごとに、手続きの仕方、ポイント、留意点等について、具体的事例を交えながら、説明いただきました。

なお、7月からは、「新規就農基礎研修」や「経営管理研修」も始まります。研修会のスケジュールは、県農政水産部の情報が掲載されているホームページ「ひなたMAFiN」でも紹介しています。



【事業承継研修会】

3 就農に向けた支援

就農相談を3名、就農計画検討会を2名（施設野菜1名、露地野菜1名）に対して実施しました。

就農相談では、品目の特性が把握できているか、長期的な経営プランがあるか、相談者への質疑を通して確認し、意識するよう促しました。

就農計画検討会では、普及センターから計画に記載のある数値の根拠や、就農に向けた準備状況を確認しました。就農予定者からは、長期的な経営を見据え、資金繰りを意識する様子が見ええました。

4 中部地区畑作営農改善推進協議会委員会

1日、普及センターにおいて、関係機関15名が出席し、今後の方針や会則の改訂について検討するとともに、露地野菜振興に係る各行政機関の補助事業について情報交換しました。

過去に策定された畑地かんがい営農指針をリバイスすることが決定し、今後はこのリバイスした指針に基づき畑作営農改善について関係機関と協議を進めていきます。

5 露地野菜栽培講習会

26日；にんじん及びブロッコリー、29日；ネギの講習会がJAみやざき綾町地区本部において開催され、延べ10名の生産者が参加しました。

普及センターから、栽培の基礎や、かん水のポイント、太陽熱消毒のポイント等を説明しました。生産者からは、「栽培管理や太陽熱消毒の効果的な方法や病虫害対策が知れて良かった。今回の学びをぜひ今後に活かしたい」との感想がありました。

今後も講習会及び巡回を継続し、安定生産及び収量向上に向けて支援していきます。



【栽培講習会】

6 6月期子牛せり市

9日と10日、宮崎中央家畜市場で開催され、合計606頭（雌：253頭、去勢：353頭）が出場しました。

セリ前講習会では、JA畜産部長から概況等の説明、続いて普及センターから「我が家の経営を振り返る」と題して決算書の見方や活用方法について講習を行いました。

子牛平均価格（税込）は、雌822千円（前回比16千円高）、去勢917千円（前回比22千円高）、総平均877千円（前回比25千円高）という結果になりました。



【研修会に参加する生産者】

7 宮崎中央家畜市場子牛品評会

12日、JAみやざき宮崎中央地区本部と綾町地区本部との合同開催による7月期子牛せり市に向けた6月期子牛品評会が家畜市場で開催されました。

審査の結果、佐土原支店の甲斐芳彦氏の「こすも」号（孔明桜産子）が優等1席を受賞しました。審査委員長の講評では体積の豊かさ幅、深さ、長さ、前中後軀の釣り合い、毛質、皮膚の薄さやゆとりが美点として評価されていました。



【優等1席「こすも」号】

8 JAみやざき宮崎中央地区本部 施設園芸セミナー

4日、JAみやざき宮崎宮農センター（本会場）と各宮農センター（リモート）にて、総合農業試験場の黒木副場長を講師として、施設園芸セミナーが開催されました。

バイオスティミュラントが働く仕組みや効果について説明があり、より実践的な研修会となりました。

質疑応答の時間には、多くの質問が出され、生産者と関係機関含めみんなで知識を深めることができました。

9 綾町施設野菜病害虫対策協議会総会

9日、綾町有機農業開発センターにて、綾町、JAみやざき綾町地区本部、綾町きゅうり生産者、NOSAI中部センター、中部農業改良普及センターで構成されている綾町施設野菜病害虫対策協議会総会が開催されました。

普及センターから、きゅうりでミナミキイロアザミウマが媒介するMYSV（黄化えそ病）の発生状況や毎月作成しているMYSV対策のチラシについて説明しました。

活発な意見交換がなされ、次作に向けて綾町全体で取組を行っていく予定です。

Ⅱ 主な普及指導活動等の取組み

1 地域プランに基づく普及活動

【重1・日本一のきゅうり産地維持のための生産性と収益性の両立】

1 JAみやざき宮崎中央地区本部宮崎支店胡瓜部会SCS研修会

18日、JAみやざき宮崎中央地区本部宮崎営農センターにて、総合農業試験場の黒木副場長を講師として、生産者28名、関係機関2名が参加し、宮崎支店胡瓜部会SCS研修会が開催されました。黒木副場長より、これからの管理と次作の準備についての講話があり、前作の気候を踏まえた今作の状況及び次作に向けた管理、また、バイオスティミュラントについての仕組みについて、わかりやすく説明がありました。その後の質疑応答と意見交換でも活発な意見が交わされました。

【重2・スマート農業による高収益園芸産地の育成】

2 夏秋ピーマン担当者会で外気導入による高温対策展示ほを設置

16日、宮崎市高岡町において、展示ほ設置農家1名、関係機関10名が参加し、外気導入装置や環境モニタリング装置、土壌水分計の設置を行いました。

今後、外気導入装置を設置したハウスと対照ハウスとでハウス内気温や湿度等の環境データ、土壌水分、収量、ロス率を比較し効果を検討していきます。



【外気導入設置】

3 促成ピーマンにおける労働力確保の現状調査とほ場状況確認

22日～23日、JAみやざき宮崎中央佐土原支店、宮崎支店管内において、JAピーマン担当者に選定いただいた大規模栽培生産者2名、家族労働主体の生産者2名に対し、JA担当者、普及センター担当で労働力確保の現状調査とほ場の状況確認を行いました。

今回の調査結果と生産者にいただいた意見に加え、本県ピーマン栽培に合った省力化技術の事例収集を行い、JA等の担当者と導入可能な労働力確保対策や省力化技術について検討していきます。

今後、国富支店管内でも7月に労働力確保の現状調査を実施予定です。

【重3・新たな挑戦による肉用牛生産システムの構築】

4 和牛コンソーシアム農場巡回

11日、清武町で若手生産者を対象としたNOSAI獣医師、JA技術員、振興局、普及センターによる農場巡回指導を行いました。

NOSAI獣医師による繁殖検診の後、セリ市成績の振り返りや飼料分析結果に基づいた給与内容を見ながら、分娩前後の増し飼いについて検討を行いました。

今後も定期的に巡回を行い、繁殖成績等の生産性向上を目指します。



【繁殖検診を受ける生産者】

【重4・マーケットインに基づく土地利用型営農の振興】

5 本郷南方地区基盤整備事業準備委員会

25日、原自治公民館において、生産者等11名、関係機関13名が出席し、地権者に同意を得るためのチラシや、今年度の千切大根の試験栽培について検討しました。

生産者から千切大根以外の品目についても検討したいとの意向があったため、参考となる品目について、今後先進地視察に行くことが決まりました。

今後も営農計画策定のために技術的支援を続けていきます。



【事業準備委員会】

6 新木地区基盤整備事業推進委員会

24日、新木地区自治公民館において、生産者等7名、関係機関13名が出席し、事業を地権者に説明するためのチラシ(案)及び水田裏作のブロッコリーとケールの試験栽培の計画について協議を行いました。

普及センターからは、試験栽培のスケジュールについて説明し、生産者から「前向きに取り組んでいきたい。」との意見がありました。

今後、実証ほの設置を支援していきます。



【事業推進委員会】

7 跡江、下小松地区水田裏作実証展示ほ反省会

3日、下小松公民館において、生産者13名、関係機関2名が出席し、当該地区で生産した水田ゴボウの出荷実績の報告がありました。

普及センターからは、今回の実証結果をもとに、水田ゴボウの作付時期や適したマルチについて説明を行いました。出席した生産者からは、「マルチの種類で生育に差が出たことがよく分かった」との感想がありました。

当該地区では令和8年も水田ゴボウを作付けする予定ですので、今回の反省点を活かしてさらに収益を上げられるよう支援していきます。

8 令和8年度 第1回中部地区基腐病対策会議

10日、普及センターにおいて開催し、関係機関17名が出席しました。

普及センターからは、「持ち込まない・増やさない・残さない」の基本対策の徹底に加え、排水対策や苗消毒の重要性について再確認しました。

また、「みちしずく」の作付動向や、苗床での発病事例、定植遅延等の課題を共有し、発生株の迅速な抜き取りと銅剤散布の徹底を申し合わせました。

関係機関から「基腐病が出た際は円滑に連絡が欲しい。」との意見があり、今後も各関係機関と連携し、講習会や巡回指導を通じて適切な防除技術の普及を図り、かんしょの安定生産に向けて取り組んでまいります。



【中部地区基腐病対策会議】

【重5・有機農業の拡大による環境保全型農業の推進】

9 綾オーガニックスクール企画運営委員会定例会

26日、綾オーガニックスクールの運営主体である（合）アヤオーガニックワークスの事務所において開催され、関係係者5名が出席しました。

最近の研修生の様子や農業実習、座学の進捗状況の確認、国庫事業を活用した施設整備等について協議が行われました。

普及センターでは、綾オーガニックスクールの座学で基礎的な栽培技術について講義を行っており、今後も関係機関と連携して、支援を続けていきます。

10 綾オーガニックスクール、水稻栽培講習会

19日、綾町で開催し、研修生5名が参加しました。

水稻の基本的な生育と主要な管理や、管理の判断基準となる観察ポイントについて説明しました。研修生にとっては初めて聞く用語ばかりで理解するのが大変だったようです。

今後、水田実習で作業を経験することにより管理技術の修得につなげていきます。また、有機栽培で大きな課題である病害虫について判別方法や耕種的防除などの技術修得へ向け支援していきます。

2 地域課題一覧に関する普及活動

1 中部地区水稲原・採種協議会総会

11日、普及センターで開催し、国富町内の塚原、深年、北俣の各採種組合の役員と関係機関ら10人が参加しました。

本年度各組合の契約数量などの採種計画を確認しました。組合からは、栽培面での省力化や種子生産の持続に向け種子価格の安定化を望む意見などが出されました。

30日には、北俣地区にて令和9年度の採種ほ打合せを行いました。北俣採種組合の食用米種子生産に関する水田利用や品種の栽培上の問題点について意見交換を行い、課題の共有を図りました。

今後、各組合毎に栽培現地指導や審査などを行い、種子の安定生産に努めていきます。

2 第一回日本茶AWARD出品者研修会

23日、普及センターで開催し、生産者6名、茶商1名、関係機関・団体10名(市4名、JA2名、振興局3名、専技1名)が参加しました。

仕上げ茶の全国大会となる日本茶AWARDへは生産者4名が出品予定です。出品された茶葉ごとに量を変えて淹れて最適な量を検討しました。また、火入れ加減等について意見交換を行いました。

今回の研修会の結果を踏まえて、大会への出品に向けて支援を行っていきます。



【研修会】

3 JAみやざき宮崎中央地区本部ハウス金柑部会栽培研修会

19日、総合農業試験場において開催し、生産者34名、関係機関8名が参加しました。

JAから今後の栽培管理について、総合農試果樹部の黒木副部長及び前田専技から夏季高温対策を中心とした説明がありました。高温対策への関心は高く活発な意見交換があり有意義な会となりました。

今後、引き続き遮光資材を推進するとともに、高温による果実のす上がり対策として頭上散水方法の展示ほを設置し検討していきます。



【ハウス金柑部会栽培研修会】

4 鳥獣重点現地支援に係る打合せ

23日、田野総合庁舎及び堀口地区内現地ほ場において打合せを実施し、関係者5名が出席しました。

室内では、令和8年度の活動計画について検討しました。

現地では、令和7年度に設置した複合柵及び作物の被害状況の確認を行いました。生産者から「複合柵を設置してから被害がなくなった」との声がありました。

今年度、重点現地支援対象地区として継続して堀口地区で研修会開催や集落点検(集落を歩き、獣が出やすい場所や被害状況を確認する活動)への支援をしていきます。



【現地ほ場の巡回調査】

5 宮崎市SAP会議通常総会

10日、宮崎市SAP会議の通常総会が宮崎市内で開催され、令和7年度活動実績と令和8年度活動計画が承認されました。

7月に鹿児島県で開催予定の九州・沖縄青年農業者会議に宮崎市SAP会議が登壇予定となっており、意気込みも発表されました。

総会終了後、関係機関とSAP会員の意見交換会が開催され、交流を深めました。



【宮崎市SAP会議通常総会】

宮崎県農林水産業ナビ
～ひなたMAFiN～
ひなたマフィン 検索
情報満載！ぜひアクセスを！⇒

